

皆様、こんにちは。

府中教会、アンドレアです。

イエスは神についての非常に深い真実を教えるために、たとえ話、あるいは簡単な短い話をしばしば使っています。イエスはたとえ話の基盤を、ごく普通の人間が体験することにおき、たいのいの人々が知っている事柄を使いました。イエスのたとえ話は、常に簡単な筋書きと一つのメッセージを持っています。

本日のたとえ話は先週の物語に続いています。しかし、種を蒔く人についての前週のたとえ話では種は「神の言葉」でしたが、ここでは「神の言葉」ではありません。ここではイエスは共同体、世界中の神の民について語っています。しもべたちは「どこから毒麦が入ったでしょう」と尋ねます。「では、行って抜き集めておきましょうか」、と言います。私たちが私たちの仲間から毒麦を抜き集めることを望むでしょう。それゆえ、これは私たちが日ごろ繰り返す、最も手っ取り早く、そして最も常識的な方法でしょう。しかし、主人は刈り入れまで待つように指示します。同じように、私たちの仲間のメンバーがお互いを裁くわけにはいかないです。私たちに人は人を裁く能力はありません。裁きは「人の子」あるいは「イエス様」に属することで、「人の子」だけが種の違いを知っているからです。しかし、答唱詩編によると、すなわち「神よ、あなたは恵み深く、心の広い方」、神の裁きの意味は我慢あるいは愛情という感情も持っているそうです。

要するに、私たちは仲間同士を裁くことではなく、守り合うべきということです。この福音の箇所を読むと星の王子様というフランスの有名な小説が思い出される。友情の大切さについて、こういう教訓を教えています。「心で見なくちゃ、よく見えない。一番大切なものは目に見えない。自分が手なずけるものにたいして、いつまでも責任があるんだ。」

